

3月26日に6年半ぶりに全線復旧するJR名松線。この名松線が走る白山町川口地内に「関ノ宮駅」があります。駅名はこの地域にあったとされる「古代の関」にまつわるもので、今回はこの関と川口の歴史について紹介します。

関とは、軍事的な目的で東国と畿内の往来を管理するために設けられた施設で、県内では鈴鹿関(現在の亀山市関町)がよく知られています。今から約1300年前の奈良時代、川口にも関(川口関)が設けられていました。当時、大和から伊賀を経由して伊勢へと至る公的な道(官道)が通っていて、川口は伊勢・伊賀の国境付近にあたり、東国への出入り口として重要な場所と考えられていたのです。



医王寺の石碑



奈良時代の古瓦

天平12(740)年、聖武天皇がこの道を通って伊勢国を訪れた際、川口に10日間滞在しています。『続日本紀』には、川口に設けられた天皇の仮宮(頓宮)が「関宮」と記されていて、川口関にほど近い場所にあつたと考えられています。

この川口関や関宮があつた場所は明らかではありませんが、候補地として、関ノ宮駅の南に広がる丘上の医王寺付近が知られていて、ここには「聖武天皇関宮宮址」と刻まれた石碑が建っています。また、奈良時代の古瓦が出土した白山中学校の辺りも候補地の一つで、これと同じ文様の瓦が出土する遺跡は、伊勢国では国府や国分寺など公的な施設に集中しています。

その後、都が平安京に移ると官道は近江を経由して伊勢に向かうルートに変わり、国の役人や伊勢神宮に仕えた齋王もこの道を往復することになりました。しかし、齋王が役目を終えて京に帰る際に、川口から伊賀経由の道が使われることもありました。

今年の春はJR名松線に乗って関ノ宮駅で下車し、雲出川の瀬音を聞き、京につながる古代の道を感じながら川口の地を訪ねてみてはいかがでしょうか。



文・写真▶教委生涯学習課

予約制です

個人番号カード(マイナンバーカード)の交付

個人番号カード(マイナンバーカード)の交付を申請した人には、順次交付の案内を送付しています。交付の際はスムーズにお渡しできるよう予約制となっていますので、案内に記載されている各交付窓口へ電話で予約の上、窓口へお越しください。

問い合わせ 市民課 ☎229-3198 FAX 221-1173

